

○ P 2 1 ルール1-65項 ストライクゾーン

改正後

ストライクゾーンとは、**打者が自然に構えたとき（スイングする前）の「みぞおち（世界では胸骨の底部）」（上限）と「膝の皿の底部」（下限）の間の、本塁上の上方空間をいう。**（※詳細はR 7-4項 P 7 3 ストライクを参照のこと）

（注1）高低においては、球の最上部（トップ）が上限に接するか、それより下を通過すれば「ストライク」である。また、球の最下部（底部）が下限に接するか、それより上を通過すれば「ストライク」である。

（注2）内・外角は、ホームプレートを上から見た状態で、ホームプレートに球が接すれば（球がホームプレート上にかかっているなくても）「ストライク」である。

（注3）ホームプレート上に想定される5角柱の空間のどこかを球が通過すれば「ストライク」である。

※ルール改正の理由・趣旨

国際ルールが改正されたことに伴い、それに合致する内容に修正を行った。

R 7-4項 P 7 3 ストライク

図を説明

（注1）の「打者が自然に構えたとき」とは、普通に両足を開いて構えた状態いう。極端に高く構えたり低く構えても「自然な状態に構えた高低」で判定する。

（注2）ピッチャー側のホームベース上の高低がよく、キャッチャー側のホームベース上で高低が外れても「ストライク」である。

また、ピッチャー側のホームベース上の高低が外れていても、キャッチャー側のホームベース上の高低に入っていればストライクである、

（注3）ホームベースに接すれば「ストライク」である。

（注4）「5角柱の空間のどこかを球が通過」については、ホームベースの捕手側の突端から前で地面に触れたときは、「ボール」とする。

ホームベースは本来長方形であるが、ファウルラインを引くことから、一部をカットしている。かつとした部分に投球が落ちた場合はボールである。

「打者が打てる球がストライク」という概念からすれば、ベース上でバウンドする投球は「ストライク」とは言いがたい。

ただし、国際ルールでは「カット」した部分に投球が落ちたが場合の判定が明記されていないことから、2018年の1年を試行期間とし、2019年には明確にすることとしている。

○P40 3-7項 ユニフォーム

2. ユニフォームナンバー (UN/UNIFORM NUMBER)

※ルール改正の理由・趣旨

記録委員会からの指摘により、ルールにユニフォームナンバーの略号に関する説明がなかったため、指名選手 (DP/DEGSINAITED PLAYER) と同様の形で、ユニフォームナンバー (UN/UNIFORM NUMBER) の表記を追加したもの。

○P49 4-8項 プレイヤーのマナー

〈効果〉3 を追加

(1) ボールデッド

(2) 打者に対してワンストライクが宣告される。

(注) 次の打者が打席に入る前や選手交代時に、監督・コーチや攻撃側のメンバーがラインを消した場合には、次の打順のプレイヤーに対してワンストライクが宣告される。

※ルール改正の理由・趣旨

既に国際大会では実施・運用されているルールであり、2017年のルールブック発行時に「国際ルールの改正がなければ完全実施」の予告どおり、本年から〈効果〉を適用することとなった。

【判例】

二死で打者が見逃し三振したあとに、三振した打者が故意に打者席のラインを消してベンチに下がっていき攻守交代となった。この場合の処置は。

※対応

国際ルールには、この場合の明確なペナルティがないので、JSAとして2018年の試行期間として次のように対処する。

次のイニングの先頭打者に対してワンストライクを課す。

球審の対応としては、「ペナルティ ワンストライク」とコールし、

★放送設備があるときは、マイクで場内放送をする。

「ただいま三振した打者が、故意にラインを消していきましたので、次の打者に「ペナルティ ワンストライク」を宣告します。」

★放送設備が無い場合、

「記録員・副審に、次の打者に「ペナルティ ワンストライク」を課す旨を通告、また攻撃側の監督にも、次の打者に「ペナルティ ワンストライク」を課す旨通告する。

○P 5 9 6-1項 投球の準備

3. 投手板を踏むときは、必ず両手を離して、軸足を投手板に触れておかなければならない。

(注) 両足を投手板に触れておくか、軸足を投手板に触れながら自由足を後方(投手板の両端の後方延長線内)におくことができる。

5. 両足を投手板に触れている状態、もしくは軸足を投手板に触れながら自由足を後方に置いた状態で、2秒以上、5秒以内身体を完全に停止しなければならない。

(注) 完全停止後、自由足を投手板から後方に引いたり、あらかじめ後方に置いていた自由足をさらに後方に引いた場合は「不正投球」となる。

※ルール改正の理由・趣旨

国際ルールが改正されたことに伴い、それに合致する内容に修正を行った。

○P 6 4 6-7項 塁への送球

2. (3) アピールプレイをしようとしたとき。

(注) 投手が投手板を外すときは、両手を離す前に、足を投手板の後方に外さなければならない。 両足⇒足に修正

※ルール改正の理由・趣旨

R 6-1項「投球の準備」の改正に伴い、アピールプレイの際の投手板の外し方も「両足」ではなく(両足が触れている場合もあるが、自由足を投手板の後方に置くことが認められたので)、「足を投手板の後方に外す」とした。

○P 7 2 7-3項 打撃姿勢(2017 P 6 8)

3. 打者は、試合中いかなるときでも、故意に打者席のラインを消してはならない。

P 4 9 4-8項 プレイヤーのマナーで説明

同様に文言を修正

4. 打者は、投球間にサインの確認や素振りをするとき、打者席内に片足を置いておかなければならない。

〈効果〉4 を追加

(1) ボールデッド

(2) 打者に対してワンストライクが宣告される。

【例外】

(1) フェア、ファウルに関わらず、打者が打球を打つとき、

(2) スイングしたとき。あるいはスイングを試みたとき(チェックスイングを含む)。

(3) 投球を避けるため、打者席を出ざるを得なかったとき

(4) ワイルドピットやパスボールがあったとき。

(5) 本塁上でプレイが行われたとき。

(6) タイムが宣告されたとき。

(7) 投手がピッチャーズサークルを離れたとき。または捕手が捕手席を離れたとき。

※ルール改正の理由・趣旨

R 7-3 項「打撃姿勢」3～4はすでに国際大会では実施・運用されているルールであり、R 8-4 項と同様に「完全実施」の予告通り、本年度から〈効果〉を適用することとなった。

○P 73～P 74 7-4 項 ストライク

※ルール改正の理由・趣旨

国際ルールが改正されたことに伴い、それをイラストで図示した。

(注1)～(注4)

P 21 ルール1-65 項 ストライクゾーン に合わせた。

○P 77 7-6 項 打者アウト

10. 打者が投手の軸足が投手板に触れたのち、反対側の打者席に移ったとき。

両足⇒軸足

※ルール改正の理由・趣旨

R 6-1 項「投球の準備」の改正に伴い、「両足」を「軸足」に修正

○P 104 9-1 項 ボールデッド

24. 送球やフェアの打球がブロックされたりオーバースローになったとき。

送球⇒送球やフェアの打球

※ルール改正の理由・趣旨

9-1 項「ボールデッド」24を、R 3-6 項「用具の放置」に対象を合わせ、「フェアの打球」を追加した。